

### クールヘッド、ウォームハート

監事 遠藤 賢治 (50期)



昨年4月に監事に就任してから早いもので、退任のご挨拶となりました。とはいえ、原稿を書いている1月時点で、私たち監事は予算編成会議の最中でして、監事の仕事はこれからが正念場です。

監事として限られた時間の中で、当会を垣間見たに過ぎませんが、それでも色々と学ぶ機会があり、日々新しい発見がありました。

その中でまず感じたことは、多くの会員が本業を抱えながら貴重な時間を割いて委員会やPT等で活躍されているということであり、本当に頭が下がる思いがしました。

また、職員の方ともごく限られた範囲で接しただけですが、誰もが例外なく当会をよくしたいとの思いで真摯に業務に励んでいる姿を目にしました。職員の皆さんが見えないところでしっかり当会を支えてくれているからこそ、役員が毎年交替しても当会が滞りなく運営されていることを改めて思い

知りました。

監事の一番の仕事は決算書について監事意見書を作成することですが、決算書の表面上の数額を見てアレコレ意見を述べるだけでなく、会員や職員の皆さんのご苦勞に少しでも想いを馳せることができたらと思います。

それと同時に、人件費や業務システム等の諸課題について論評する際には、持続可能な財務規律の観点から当会の財務状況について冷静で客観的な理解が求められるのはいまでもありません。

冷静な頭脳と温かい心が必要だというのはイギリスの著名な経済学者の言葉だそうですが、せめてその心意気だけでも見習って残る監査業務に当たる決意です。

最後になりましたが、会長を始め今年度役員や職員の皆さん等多くの方に至らないところを助けていただきました。心より感謝申し上げます。

### 続いていただく方々へ ～考えてみてほしい 監事という選択肢～

監事 坏 由美子 (53期)



監事という道について、自身の業務への支障などの点でためらう方もおられるだろう。私も、お話をいただいた時は末子が小学校低学年で、これ以上は…と躊躇した。しかし、今回、通常業務では得がたい多くの出会いと学びをいただいた。そこで、退任のご挨拶に代え、役員業務に関する今年度の創意工夫について、感謝の思いとともにご紹介したい。

当会監事(2名)は、会長・副会長(6名)とともに「役員」と呼ばれる。今年度は、定例会議として、理事者会(週2)のほか、常議員会・同正副会議、財務委員会、会館委員会、財務PT、月例監査(顧問税理士・財務課)、MM(事務局職員との会合)などに出席した。

なんとかやりくりできたのは、松田会長をはじめ今年度役員、職員など、皆様のご協力の賜物であり、主に以下3点の創意工夫が挙げられる。1つめとしてついに理事者会もweb出席可としていただいたこと(月1程度トライし、大変

助かった)。2つめは効率的な会議運営(今年度理事者会は司会の工夫もあり、様々な意見を交わしつつほぼ定刻通り終了した)。3つめは夜設定の会議がなかったことである。特に育児・介護の責務がある者は、夕食から寝かしつけの時間帯(概ね18~22時)に並行して業務を行うことは難しい。私はその時間帯を「生活コアタイム」と呼ぶが、その時間帯に定例の会議や勉強会などが設定されれば、出席自体をあきらめざるを得ない状況となる。しかし今、監事については、時間的制約の関係であきらめてきた会員や、その時間帯には自身の業務・勉強に専念したいとする会員も、トライできる環境になったとお伝えしたい。

今は1月。12月から予算編成会議(週1、2)が加わり5月末には監事意見書上程という最重要業務が待ち構える。残された期間、会員のため、職員のため、知恵を絞り走り抜く所存である。